

平成 22 年 6 月 10 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：平成 19 年度～平成 21 年度

課題番号：19601003

研究課題名 (和文) 大学ベンチマーキングによる大学評価の実証的研究

研究課題名 (英文) An Empirical Study of Benchmark of Universities: With Reference to the University Evaluation and Quality Assurance

研究代表者：小林雅之

(東京大学 大学総合教育研究センター 教授)

研究者番号：90162023

研究成果の概要 (和文)：

大学ベンチマークは、少数の比較対象となる大学を取り上げて、指標を作成して定量的あるいは定性的な比較を行う。これによって、個々の大学の特性を明らかにし、個別大学の改革の基礎的な知見を提供することを目的としている。このため、インターネットなどの公開情報や資料などによるベンチマークのためのデータを収集するとともに、イギリスと中国とアメリカでの実地調査に基づき、各国の大学のベンチマークの実態を比較検討した。各国では、それぞれの歴史的経緯から様々に異なるベンチマークを実施している。たとえば、イギリスでは学科目ベンチマークとして、定性的な指標のみであるのに対して、アメリカでは、Institutional Research (IR)や戦略的計画と関連して、定量的な指標によるベンチマークが盛んに実施されている。こうした点を考慮して、ベンチマーク指標について、定性的および定量的な両面から、検討した。特にベンチマークでは、少数の教育機関について、比較するため、指標が適切ではない場合、あるいはデータや測定に問題がある場合には、間違った結論に導かれやすい。このためアメリカでは、複数の大学によるコンソーシアムや団体を通じて、相互にデータを交換することで、ベンチマークのデータを正確にするよう努めている。これらの点に十分に留意しつつ、沿革・規模・学生・スタッフ・財政・授業料・奨学金について、指標を作成し、これに基づくベンチマークのモデルを作成した。これを用いて、アメリカ・イギリス・中国・日本の4カ国の9大学を選定し、それらの個別大学のベンチマークを実施した。これによって、規模などでは、比較的似ているのに対して、授業料・奨学金や財政構造には、大きな相違があることが明らかにされ、具体的な大学のベンチマークに有用なモデルを提示することができた。

研究成果の概要 (英文)：

The purpose of this research project is studying benchmark methods in higher education, in order to assure and enhance the individual higher education institutions. To accomplish this purpose the data of individual higher educations are gathered mainly from the published sources such as homepages of institutions. Simultaneously we had intensive interviews for higher education institutions and public institutes such as Quality Assurance Agency for Higher Education in England. In England subject benchmark statements are used for the reference of enhancement and assurance of each university. In the United States the intermediate organizations such as Consortium for Financing of Higher Education (COFHE) or American Association of Universities Data Exchange (AAUDE) have an important role in benchmarking. Based on these findings we make a benchmark model and try a tentative benchmark of nine universities in four countries. It is very difficult to compare the figures because the definitions of the most basic characteristics such as student numbers or faculty numbers are very different among countries. However we can compare the rough sketches of nine universities, and found there are so many common characteristics such as student numbers. We can show the usefulness of our model.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 19 年度	700,000	210,000	910,000
平成 20 年度	1,600,000	480,000	2,080,000
平成 21 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：

(1) 教育学 (2) 大学評価 (3) 質保証 (4) 高等教育政策

1. 研究開始当初の背景

日本においては、大学評価は、認証評価制度や国立大学法人評価制度が創設され、従来の大学による自己点検・評価に対して、第三者評価が実施されるようになった。しかし、大学評価には、本来大学自身による大学の内部質保証という重要な役割がある。この点については、我が国では、戦略的計画や IR (インスティテューショナル・リサーチ) として、近年注目を集めるようになったが、まだ一部の大学で実施されているに過ぎない。大学のベンチマークは、アメリカやイギリスなどでは大学の質保証のために積極的に用いられているが、我が国では、まだほとんど実施されていない状況にあった。

大学改革の中で大学評価の重要性はますます高まっている。東京大学大学総合教育研究センターでは、大学評価なかでも市場型大学評価について、これまで研究を蓄積してきた (Comparison of Global University Rankings など)。市場型大学評価とは、商品としての大学評価を目的とするものであり、受験雑誌あるいは予備校など民間企業による大学情報の提供とは異なる、新しい大学情報の提供形態であり、その代表的なものが、様々な民間企業による大学評価とりわけ大学ランキングである。その結果、大学ランキングとりわけ「大学総合ランキング」には、方法的に様々な問題があることが明らかにされた。

これに対して、ランキングとは一部の手法が重なるものの、目的がまったく異なる大学評価が大学のベンチマーキングである。ランキングは様々な指標を数量化し、それに基づいて、多数の大学をランクづけしたり、さらに、それらの指標を加重平均して総合ランキングを作成する。これに対して、ベンチマークは、指標を作成して比較する点はランキングと共通であるが、少数の比較対象となる大学だけを取り上げて実施する。また、必ずしも数量化するのではなく、定性的な比較も行う。ベンチマークは、これらの定量的あるいは定性的な比較によって、個々の大学の特性を明らかにし、個別大学の改革の基礎的な知見を提供することを目的としている。

こうした大学のベンチマーキングに関しても、東京大学大学総合教育研究センターでは、東京大学とオックスフォード大学並びにシェフィールド大学との比較研究を実施した (『日米欧主要大学の研究水準とその基盤についてのベンチマーキング』)。そこでは、イギリスの2大学と比較して、教員構成や学生の特質、財政などについて、多くの共通点を見いだしながらも、組織構造などでは、とりわけ法人化前の東京大学とは大きな相違点があることが明らかにされた。しかし、こうした大学のベンチマーキングに関しては、英米の大学では盛んに実施されているのに対して、わが国ではほとんど実施されていないのが実状である。このため、とりわけ法人化後の国立大学とアメリカの州立大学やイギリスの大学などとのベンチマーキングは、大学評価としても、また個別大学の改革にも重要な意義を持つと言えよう。

市場型大学評価に対して、制度型大学評価は、なんらかの公的機関が行う大学評価である。わが国でも、制度型大学評価は、平成14年の中教審答申によって、認証評価機関による第三者評価の義務化されたことにより、重要な意義をもつこととなった。このため、制度型大学評価についても、大学総合教育研究センターでは研究を蓄積してきた。制度型大

学評価には、日本の大学評価・学位授与機構、大学基準協会、アメリカの大学基準協会や専門職団体による大学評価や専門プログラム評価、イギリスのQuality Assurance Agency for Higher Education, QAAやHigher Education Funding Council, HECFの研究評価（RAE）、フランスの大学評価委員会などによるものなどがある。しかし、これらについて、大学総合教育研究センターでは現在資料収集と調査を実施しているが、これらの評価ではベンチマーキングはあまり用いられていないことが明らかになっている。

平成3年の大学の自己点検・評価の導入以来、わが国でも大学評価に多くの関係者の努力が注ぎ込まれてきた。しかし、「評価疲れ」と言われるように、その努力の割には、大学改革に大学評価が有効であるか、疑問視する議論も少なくない。大学ベンチマーキングについては、東京大学大学総合教育研究センターが実施したもの以外にはほとんどないのが現状であり、本研究によって、ベンチマーキングという手法による個別大学の大学評価の特質が明らかになると考えられる。

2. 研究の目的

大学ベンチマークは、少数の比較対象となる大学を取り上げて、指標を作成して定量的あるいは定性的な比較も行う。これによって、個々の大学の特性を明らかにし、個別大学の改革の基礎的な知見を提供することを目的としている。

本研究は、大学のベンチマーキングを中心に、大学評価の様々な問題の解明のための基礎的な知見を得ることと個別大学の改革に資することを目的とする。

(1) 大学ベンチマーキングの特性を明らかにすることによって、大学評価の技術の向上に資する。

(2) いくつかの個別大学のベンチマーキングを行うことによって、個別大学の改革に寄与するとともに、大学評価の国際的な共通性と問題点および課題を明らかにして、大学評価や高等教育政策の一層の改善に資する基礎的な知見を得る。

(3) 大学ベンチマーキング・モデルのひな形を作成し、個別大学のベンチマーキングの普及に資する。

3. 研究の方法

まずベンチマークに関する先行研究を検討するとともに、基礎的な資料収集し、ベンチマーク指標作成のための基礎作業を実施した。これらにより、具体的なベンチマークの実施のための検討を行った。具体的なベンチマークのための作業は以下の通りである。

(1) 大学評価とベンチマーキングの比較

大学評価および大学ベンチマーキングに関する先行研究とデータを収集整理した。これに関連して、IRと戦略的計画についても資料を収集した。特に海外の先行研究とデータについて、収集整理を行った。

(2) 大学評価方法とベンチマーキング指標の構築

先行研究及び収集整理したデータに基づき、大学評価とベンチマーキングの指標を作成し、検証を行った。具体的には、評価基準、評価項目、数量化の方法などについて、それぞれの大学評価に基づき、同一の大学について、評価の相違とその要因を相互に比較検討した。これによって、それぞれの大学評価やベンチマーキングの持つ特性や問題点を明らかにすることができる。

(3) 対象機関ベンチマーキングの実施

作成したベンチマーキング指標により、いくつかの大学をケースとして、既存資料によるベンチマーキング指標を行った。この結果を詳細に検討し、さらに必要なデータの検討を行った。

(4) 大学機関調査

日本の大学や大学評価において、ベンチマーキングは、ほとんど研究されていない。大学の特性をベンチマーキングするためには、既存資料だけでは、実態を把握することが困難である。このため、海外の大学数校を対象に実地調査し、ベンチマーキングに必要なデータを収集した。

(5) 大学評価機関調査

Quality Assurance Agency for Higher Educationや教育部高等教育教学評価センターなど大学評価機関を対象に、大学評価とベンチマーキングとの関連をどのように評価するか、などを中心に、実地調査した。また、ベンチマーキングの評価機関や大学に与える影響についても調査を実施した。

(6) 評価指標とベンチマークモデルの設定によるベンチマークの試み

以上の分析に基づき、海外大学のベンチマーキング調査の実施のための評価指標を作成し、これによってベンチマークモデルを作成した。これを用いて9大学のベンチマークを行った。

4. 研究成果

イギリスと中国とアメリカでの実地調査に基づき、各国の大学のベンチマークの実態を比較検討した。各国では、それぞれの歴史的経緯から様々に異なるベンチマークを実施している。たとえば、イギリスでは学科目ベンチマークとして、定性的な指標のみであるのに対して、アメリカでは、定量的な指標によるベンチマークが盛んに実施されている。こうした点を考慮して、ベンチマーク指標について、定性的および定量的な両面から、検討した。特にベンチマークでは、少数の教育機関について、比較するため、指標が適切ではない場合、あるいはデータや測定に問題がある場合には、間違った結論に導かれやすい。このためアメリカでは、複数の大学によるコンソーシアムや団体を通じて、相互にデータを交換することで、ベンチマークのデータを正確にするよう努めている。これらの点に十分に留意しつつ、沿革・規模・学生・スタッフ・財政・授業料・奨学金について、指標を作成し、これに基づくベンチマークのひな形を作成した。これを用いて、アメリカ・イギリス・中国・日本の4カ国の9大学を選定し、それらの個別大学のベンチマークを実施した。これによって、規模などでは、比較的似ているのに対して、授業料・奨学金や財政構造には、大きな相違があることが明らかにされ、具体的な大学のベンチマークに有用なモデルを提示することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 0 件)

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別 :

○取得状況 (計◇件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

取得年月日 :

国内外の別 :

[その他]

ホームページ等

www.he.u-tokyo.ac.jp

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小林雅之（ 東京大学・大学総合教育研究センター・教授 ）

研究者番号：90162023

(3) 連携研究者

大多和直樹（東京大学・大学総合教育研究センター・助教）研究者番号：60302600

劉文君（東京大学・大学総合教育研究センター・特任研究員）研究者番号：80508408